

さらに魅力ある大学図書館に

図書館長・名古屋図書館長
塩山正純

NAGOYA



2020年10月から2年間、引き続き図書館長をつとめることになりました国際コミュニケーション学部の塩山正純です。どうぞ宜しくお願いします。

年に数回は欧米各国の様々な図書館・資料館を調査で訪れますが、彼の地では、資料は使われてこそ活きる、という考えが図書館のあり方の基本になっています。私は愛知大学図書館のホスピタリティは、欧米の先進的な図書館に引けを取らないと実感しておりますが、図書館の学術資源を学生は勿論のこと社会にとってより身近な存在にしようと、数多の貴重資料のデジタル化、創立以来蓄積してきた一万点の漢籍資料の完全目録化、国内外の大学・機関と連携した漢籍プラットフォームによる世界への発信を、新たな取組みとして始動しています。

今春、豊橋校舎の再整備計画が正式に決まりましたが、図書館の充実が図られることで、名古屋校舎ささしま移転後、図書館や研究所の蔵書五十数万冊が外部書庫に仮置きされてきた状態が解消され、大学が所蔵するほぼ全ての蔵書が実際に手に取れる環境が整う見通しがつきました。そしてこの再整備では、図書館が校舎全体の学びのハブとしてより有機的に機能することが求められています。二十数年前に私が学生だった頃とは学びのスタイルも大きく変わり、とくにコロナ禍での遠隔・在宅学習によって現在進行形でより劇的に変化しています。図書館も足を運ばれるのを待つだけではなく、仮想の図書館の「場」でのデジタル・サービスの提供と、リアルな図書館の「場」での学習・研究サポートの両輪で発展していけるように一層の工夫が必要だと考えています。新たな社会貢献のあり方とあわせて工夫を重ねていきます。

大学図書館の役割は多様化していますが、それでも図書館が学びの中心であることは変わりません。もしキャンパスに図書館が無かったら、それはなんとも間の抜けた空間ですし、図書館自身にとってもそこに使う人が居なければ無味乾燥なただの空箱です。図書館は人が集い使われることで活きた場所になります。皆さんとともに「なぜ大学に図書館があるのか」という根本を考えながら、魅力的な学習・教育・研究の空間をつくるための工夫をしていきたいと思えます。

愛知大学の発祥の地である豊橋図書館の伝統と蓄積、そして名古屋（車道）図書館の都市型キャンパスの特性を活かした機能性をいま以上に活かして、合わせて一つの愛大図書館であるというスタンスで、愛知大学で学ぶ者にとって愛知大学図書館がより快適に機能するように、2年間引き続き旗振り役をつとめてまいります。

豊橋図書館館長
下野正俊

TOYOHASHI



このたび愛知大学豊橋図書館長に選ばれました、文学部哲学専攻の下野正俊です。

二期で卒業させていただけるかと思っておりましたが、コロナ禍という非常事態への対応に専念せよとの趣旨で、もう少しの間、図書館とご縁をつなぐことになりました。よろしくお願いたします。また、図書館の建物の整備を始め、コロナ禍対応以外の課題も山積しています。塩山館長や職員の皆さんとの協力のもと、微力を尽くしたいと願っています。

この原稿を書いている2020年10月初頭、本学の危機管理体制はレベル1となり、多くの対面授業が復活しました。それは喜ばしいことではありますが、だからと言って、コロナ禍が収束したわけではありません。状況はまだ流動的であり、将来は不確定です。ここで銘記すべきなのは、事態がどのように進むとも、2020年以前の状態に完全に戻ることはないし、また戻ってはいけない面も多々ある、ということです。

2020年の春学期、学生の皆さんも我々教職員も、多くの場面で「本質」を問われる、という経験をしました。大学図書館にとって大学にとって何が本質であり喪ってはならないものであるのか、逆に何が付帯的な、捨てることのできるものであるのか。大学図書館とは、大学とは、学問とは、そもそも何なのか。私たちは、日々戸惑い、模索しながら、教育研究環境を作り上げました。コロナ禍は、「本質を問う」という鋭い刃を私たち全員に向けたのです。コロナ禍を通して、私たちは改めて自らの周囲を見廻し、見過ごしてきた多くのことに気づくことになりました。この抜き差しならぬ本質を巡る問いが否応なく突きつけられた結果、社会全体として、図らずも未聞の知識と経験と蓄えることになりました。それを基礎として、護るべきを護り、変えるべきを変え、新たな日常、新たな社会を作り上げていく可能性と使命とを私たちは与えられたと言えるでしょう。

そして、本質を問う問いの切っ先は、翻って我が身にも向けられます。大学の構成員である私は、あるいは私たちは、何をなすべきであり、何を譲ってはならないのか。良心的な人々は、この半年間こう自問し続けた筈です。そういう真摯な知性のあり方に寄り添うことが、今日の大学図書館が果たすべき責務であるように、私には思われます。

豊橋図書館長として託された任務は重く、私一人の能力では、その重さを担いきることができません。多くの方の協力が必要です。共に歩んでいただければ、幸いです。